

# 日本山岳会 越後支部報

## 創刊号

平成22年7月10日

発行 日本山岳会越後支部

発行者 山崎幸和

新潟県燕市吉田大保町 4-8

TEL.FAX 0256-93-2655

支部報委員長 高橋正英

## 私の一枚

2010年5月1日～5日久しぶりに飯豊連峰の縦走にチャレンジした、この写真は夕方5時頃日が沈む直前の大日岳である。岳人はこの美しさに惹かれ再びやってきた。しかし、残雪が消えたとき、飯豊連峰は荒廃した山となる。踏みつけられた花崗岩礫が豪雨で流された荒れた様を露呈する。今登山を脱ぐ前になんとかしなければ・・・。

飯豊連峰登山道保全整備連絡会議理事 本間一人 氏



## 越後支部報の発刊によせて

越後支部長 山崎幸和



念願の「越後支部報」を漸く発刊することができました。新しく事を始めるといことは苦勞があり、それを継続してゆく事は更に大変なことです。未永く続く事を願うものです。

この支部報発刊も、支部活性化のための一部門であります。越後支部の活動をいかに活発化させるか、昨秋から本格的に検討に入り、活性化事業の遂行を円滑化させるため12月の役員会で6部門の専門委員会(支部報、事業、自然保護、図書、県山協、総務)を立ち上げ、22年度から活動を開始することになりました。この新体制が順調に機能するには多少時間を要するかと思いますが、支部会員各位の暖かいご理解とご協力を切に願っています。

当支部は30支部中、関西支部につぐ古い設立で、支部会員も本年4月で232名は関西、東海支部についての員数であります。今後もよき伝統は継承し、多くの会員の交流と融和の推進は支部活性化と発展のための礎であり、支部報の果たす役割は非常に大きいものと確信しております次第です。

# 支部報発刊を祝う

新潟県山岳協会長 遠藤 家之進 正和

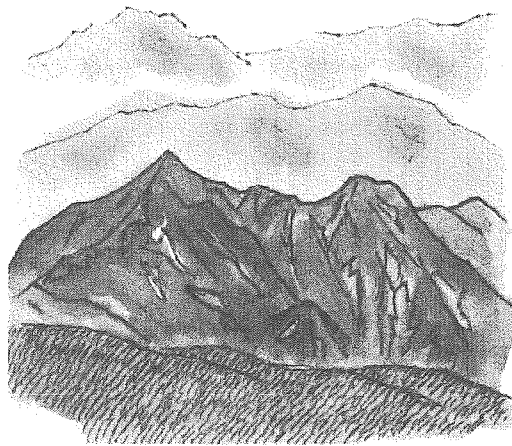
私が「越後山岳」1号から5号を知ったのは、山を登りはじめて7年ぐらい経った頃、先輩から進められたもので、引き込まれるように一気に読み上げたのを覚えています。山頂からの展望に思いめぐらし、先輩達が辿った山城を歩くことを目標にしたものでした。

このたびは越後支部報が発刊されることになりましたが、「越後山岳」とは違った意味で、会員相互における情報の共有ができることとなり喜ばしいことと思います。越後支部には入会したが、都合で行事になかなか参加できない。誰が参加したのか、どんな山行だったのか、また支部がどんな活動をしているのか、会員は知りたがっているのではないのでしょうか。越後支部では、事業推進を円滑化させるため各種委員会を立ち上げ、推し進めておりますが、事前に周知することにより、多くの参加者を望めることになると考えています。

一つの山行報告にしても、読む人々に感じかたは違い、思い馳せることと違います、自分なりの記録を残している会員もいるでしょうから、それらを掲載することも支部事業の一環ではないでしょうか。

ご存知のとおり新潟県山岳協会では「新山協ニュース」を発刊して、加盟団体相互の親睦融和を図るよう進めています。近時の日本山岳会等の動向もさることながら、越後支部が、会員が、何を

以て入会していることの意義を見いだせるかということからしても、活動記録を残すことは大切なことと思っております。越後支部が活性化していく前堤として、この支部報が会員を含め多くの方々の情報発信に寄与するものと期待しております。



画 支部委員 五十嵐力



山草花

# 先人の志を聴く

越後支部名誉会員 室 賀 輝 男

日本山岳会の抱える大きな課題の第一は、会員の高齢化と若年層の減少から来る会員の増強策、第二点は公益法人法施行による公益法人への移行問題、その他本部機構見直しと首都圏支部の組織化、山の日制定等がある。

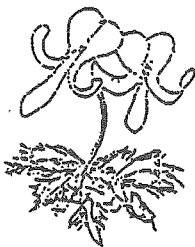
越後支部では山崎支部長以下各委員が担当を決め推進に当たっている。幸い越後支部は、組織の高齢化はやむを得ないが、200余名会員数は永年維持され、途中退会者も僅少で若手対応のみ課題である。

これは初代藤島玄支部長の無理な数合わせをせず、息の長い会員を求め基本理念によるところで、常々入会条件は社会に信用があり地域グループ(山岳会長)が責任を持つて推薦出来る者、肩書きや名譽を求めず、終生山岳会員として汗を流せる、会費をキチンと納めることを支部の規範とされたことによる。

近年入会間もない1000〜1400番台の退会者が目立つ中で越後支部では稀なことは、この理念が引き継がれている所以である。次に県を代表する山岳会として社会貢献と会員の資質向上、創立以来「やらない支部」を看板としながらも藤島を始め先人達のネットワークで費用は主催者の捻出で(支部は予算がない)恐らく他支部では例を見ない日本山岳会歴代会長や諸先輩を迎

えて永年に亘り高頭祭、佐渡ヶ島、飯豊連峰等々越後の山旅、地域の文化、自然、民族等の研究会、山岳講座、講演会、国際交流等で先輩の直接指導を受け、幅広い人脈と重厚な資質を持った会員が育ち強力な支部組織となり、その間、新潟国体、長岡八方台での現地小集会、創立60周年苗場山、創立80周年八海山大会の運営を担当、大成功に導いた組織力は越後支部は高い評価を受け越後衆の集団として一目も二目も置かれる活動の最盛期であったが、その後、登山界の変化の波が進み、中高年登山ブーム、地方山岳会、学校登山部の衰退と併せる様に支部でも世代交代が進み活性化、高齢化対応が迫られている。

会員増強、社会貢献策共に統一された妙案はない、地域の特性を考え、藤島の指導理念も今日の社会に照らし参考として、時代の流れをつかんだ新鮮な企画で若者の心をつかみ、活力にあふれた会員を募り、入会に当り若者を育てる日本山岳会の理念をしっかり説明し共鳴できるか否かを見極める事が大切で支部の歴史と伝統を守る体制作り、山崎支部長と共に知恵と汗を流すことを誓いたい。



山草花

# 越後支部総会報告

事務局長 田邊信行

平成 22 年度支部総会は、担当は会津と定められ、佐竹、森澤両支部委員及び会津地区会員のお世話で、福島県大沼郡三島町宮下温泉「栄光館」にて開催されました。

総会に先立ち、支部役員会が開催されました。今年度から新しい組織体制で、全国と足並みを揃えて活動することを再確認いたしました。

新組織は、6 事業委員会の設置・事業委員会(高頭祭、懇親登山、全国支部懇談会、支部間交流等各種事業の開催)、自然保護委員会(自然保護活動事業の実施)、支部報委員会(「越後支部報」の編集・発行)、図書委員会(山岳図書等の整理・広報・啓発)、県山協委員会(県山協事業への参画・広報等)、総務委員会(総務・会計・総会開催・支部晚餐会、各委員会・本部等との連絡調整)です。各委員会には委員長を配置し構成委員等と協議しながら事業を推進していただくとなりました。

次に、予算の縮小が大きいため、当面の対応策として永年会員および終身会員の皆様から応分のご協力をいただくというお願いをする了解をいただきました。

総会 出席者 30 名、議長・山崎支部長  
第 1 号議案 21 年度事業報告  
5 月 30 日 支部総会・阿賀町新三川温泉 E2 湯  
5 月 31 日 懇親登山・馬の髪山(757 m) 4 名  
6 月 20 日 21 日 自然保護全国集会秋田集会

7 月 25 日 高頭祭・宮下前会長他 112 名  
10 月 25 日 26 日 全国支部懇談会 7 名  
12 月 12 日 支部晚餐会・神崎副会長他 88 名  
会計報告収入額 830,225 円、支出額 74,121 円、繰越額 1,561,104 円を報告、監査状況を小山監事が報告を行い審議し承認されました。

## 第 2 号議案 22 年度事業計画

5 月 23 日 海のウエストン祭糸魚川親不知  
5 月 29 日 総会・福島県大沼郡三島町宮下温泉・栄光館

5 月 30 日 懇親登山・飯谷山(783 m)  
7 月 25 日 高頭祭・尾上昇会長御来光  
9 月 5 日・6 日 全国支部懇談会東京多摩支部主管

12 月 11 日 支部晚餐会・新潟東映ホテル  
各委員会事業計画及び予算案収入額及び支出額 660,000 円と前年度支出額より 24,415 円減額の提案。特に各委員会事業計画(役員会報告内容参照)の詳細を説明し、予算案の説明とそれに伴う行動に対する予算不足も出てくるが、合理的な運営により無駄を削除して推進することの提案を行い、審議し承認されました。

支部活動が目に見えるもの、全員参加型のものにする事で会員の理解とご協力がいただけるものと思う次第です。

次に「支部協力会費」については、予算不足をいきなり全支部会員に会費徴収の制定をせず(全国支部で会費徴収していない支部は数支部です)、永年会員と終身会員分の助成金が本部から入りませんので、この会員の皆様に支部の状況を丁寧に説明し、ご理解とご協力をいただき「支部協力会費」納入のお願いの文の発出をさせていただきました。いと提案、全会一致で了解されました。会員獲得で出席者に入会案内と入会申込書を配布し会員増加協力をお願い

した。「山の日」制定運動への協力依頼。支部員に係る慶弔連絡の第一報は事務局へと御家族にもそのことの周知をお願いした。

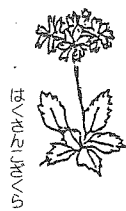
## 記念講演 講師・森澤堅次支部委員

演題「越後と会津の峠など」飯豊山から平ヶ岳までの峠を中心とした楽しく有益な講演をいただきました。

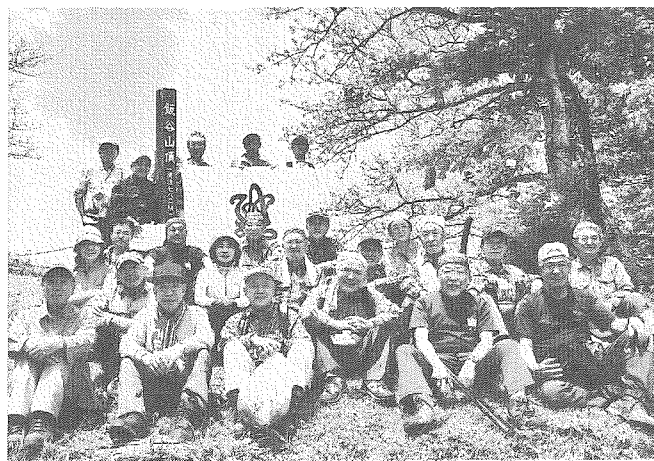
雑感、各事業委員会では事業計画会議を開催して役員会に提起している、やる気満々の各委員会の活動が楽しみです、事務局は支部協力会費も活かし、生き生き活動支部を精一杯支えてゆきたい。

## 親睦登山

支部委員 佐竹信幸



総会の翌日、前日の天気祭りが功を奏したのか、快晴に恵まれ上々の登山となった。比較的楽に登れる為ゆつくりの朝食と出発となった。旅館をマイクロバスで出発、総勢 25 名の隊である。登山口 9 時 30 分、会津の森澤会員がトップ、後方は佐竹で登り始める。目指すは標高 783 m の飯谷山(イイタニサン)ぞいたくな、花木を観察しながらの行程である、加藤明文会員の花木の解説ではテンナンショウ、エンレイソウ、ナルコユリ、タチツボスミレ、チゴユリ、ヤマユリ、ヒメサユリ、ヒメシ



ヤガ、などが詳しく説明された。10 時 40 分には山頂に到着し、早めにゆつくりの昼食とする。自然観察するものスケッチするもの、のんびりと横になるもの、晩酌のつまみの山菜を調達するものなどさまざま、山頂での記念の集合写真後に下山する。神社跡までの行程は木炭生産後のブナの 2 次林が見事に生い茂り、緑の中さわやかな下山となった。神社跡を過ぎると道の両側に二抱えもあるブナの神木が 5 本ほど伐採されず残っていた。

今日の登山では自然保護活動として山のゴミ回収が行われ、成果があった。13 時 20 分に飯谷神社口に全員無事下山し、待っていた迎えの車に乗車、旅館にもどった。山崎支部長の挨拶後に解散、希望者は入浴し帰路となった。

# 山 靴

## 糸魚川ジオパークの山々

越後支部名誉会員 小野 健

2009年8月、糸魚川市の地質等の資源24サイトが世界ジオパークに認定された、他に国内では、長崎県雲仙と北海道洞爺湖の三ヶ所となる。ジオパークは、その地域にある地質的特徴を主体に歴史文化を含めたすぐれた自然を指定している。その目的は、貴重な資源を保護しそれを教材等に活用してふるさとをよく認識する。さらに観光資源として開放し地域を活性化していくことを狙っている。

対象となるジオサイトは、海岸から里山へ、高山まで広範囲に指定されている、糸魚川は、日本列島の中に位置し、姫川沿いに糸魚川と静岡構造線が走り、東側がフォッサマグナ帯、西側に0〜3000mに至る飛騨山脈が連なっている。フォッサマグナ帯には富士火山帯北部の妙高山山群があり、その一山である焼山は県下唯一の活火山でもある。飛騨山脈は海岸線より25km入ると県下最高峰2,766mの小蓮華山がある。糸魚川にはまた、中部山岳国立公園と上信越高原国立公園があり、富士火山帯と白馬乗鞍火山帯、頸城アルプスと北アルプスという常に對比される生い立ちを異にする特徴を有している。

拇海新道は、アルプスと海をつなぐ縦走登山道で、白馬岳から親不知までの地質、地形、植生の変化は、学術的価値の高い評価を受けている。白馬岳、朝日岳、黒岩山までは、青海蓮華帯変成岩の古生層、黒岩山と白鳥山間は中世代ジュラ紀末馬層群、白鳥山以北二本松峠まで白亜紀の手取層、相当層、そして親不知は白亜紀後古第三紀親不知火山岩類に変わるつまり高山より日本海に向かって地層が新しくなっていく、植生も暖温帯の海岸植物より冷温帯として亜寒帯の高山植物帯までの垂直分布が見られる。

白馬岳東稜の小蓮華山は山頂部が崩壊して最高峰が3m低下した。雨飾山北部フォッサマグナ帯に在り、成因が能生鉾ヶ岳に類似する。深田百名山で当地域では最も多くの登山者で賑わっている。能生の権現岳は最高位の鉾ヶ岳とした方が自然だ。

雨飾山と同じく山麓には温泉が湧出する。焼山は、妙高山の枝火山として3000年前より噴火を繰り返して、1974年には登山者が火山弾で死亡している、2006年に登山禁止が解除になった。駒ヶ岳三山や海谷右岸の山も、海谷溪谷としてジオサイトに包括されている。この他ヒスイ峡や黒姫山石灰岩の溶蝕洞窟群も指定された、このように糸魚川地方は日本列島誕生を解く大きな地質的特徴を有し岩石の種類でも日本一を誇っている。

地球の歴史数億年の昔から、現代に至る太古のロマンを秘めた糸魚川を訪れてジオパークを楽しんで頂きたい。

# 掲示板

**第五十三回「高頭祭」7月25日(日)に尾上会長と来山!**

- 開始 14時30分 大平園地
- 講演 演題「山の日をつくろう」
- 講師 日本山岳会・尾上 昇会長
- 懇親会・飲料等は各自持参ください
- 16時 弥彦山頂の松明登山祭へ参加移動
- 17時 弥彦山頂祭(御神廟前玉串奉奠)
- 18時20分 松明点火山頂出発
- 19時30分 途中参加者は山麓清水茶屋参集で合流
- 20時 弥彦神社で社頭行事(市中行進) 駅前解散(記念品贈呈) 弥彦体育館にて懇親会

## 第二十六回全国支部懇談会

期日・平成22年9月5日(日)〜6日(月) 会場・京王プラザホテル多摩  
日程・5日 午後12時受付 支部活性化  
全国大会午後二時 懇親会 18時30分より

6日記念山行  
Bコース 高尾の森づくり見学  
Cコース 多摩御陵散策  
費用 1万9000円(宿泊・懇親会・記念山行)  
越後支部は一括して申し込みますので希望者は7月25日までに事業宇委員  
井出秀雄委員長まで申し込んでください。  
電話 025-266-1319

## 支部報原稿募集

支部会員の皆さんから広く原稿を募集していますので、投稿をお願いします。

## 私の一枚(写真・スケッチ)

自慢の力作、思い出の一枚、秘蔵の一枚等々：：100字程度のコメントを添えて投稿下さい。

## コラム

題名を問わないので自由にお書き下さい。山靴

会員の山行記録を自由にお書き下さい。原稿用紙は17字×32行で専用紙を用意していますので必要な方はお申し出ください。

## 編集後記

越後支部も支部報を発刊することになりました、是も時代の流れなのかもしれませんが、昭和三十年代前半マナスル登頂で登山ブームの頃、山は若者のジャンルで高齢登山者は、大先輩の山の猛者ばかりでしかみごとく少数しかなく、敬意のまなざしでみられたのですが、今ではすっかり様変わりしてしまい山は高齢者で埋め尽くされて若者を見る事が珍しくなりました。：：そこで山に若者を呼び戻すためにも小学生の登山支援を積極的に進め、幼少期から自然に親しむ心を育てる事もひとつの役目かも知れません。(正)

種絵は、五十嵐力画伯及びカットは山田聖子監事から持段のご協力をいただきました。感謝申し上げます。

